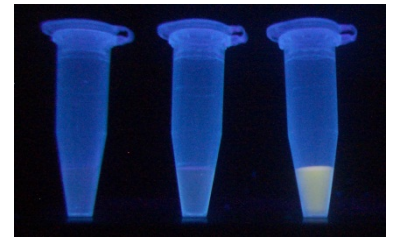


生命現象を解き明かすための 化学的ツール(道具)を開発する！

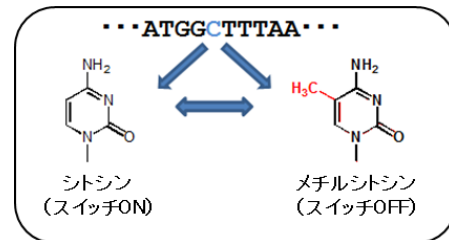
研究内容

- バイオマーカーの蛍光検出法の開発
 バイオマーカー(血液中や細胞表面に存在する病気に関連する生体分子)に結合すると蛍光を発する機能性核酸分子を開発し、病気の診断や細胞の生命現象の可視化(バイオイメージング)への応用を目指す。
- 遺伝子診断技術の開発
 ヒトの遺伝子配列のわずかな個人差や核酸塩基の構造の違い(シトシンのメチル基の有無)を検出するための新しい技術を開発し、病気のリスク予測・がん診断などへの応用を目指す。

蛍光を発する機能性DNA(右のチューブ)



シトシンのメチル化
(遺伝子のスイッチ)



研究室について

- 研究室の現在のメンバーは大学院生4名と4年生12名で、そのうち女性は5名です。
- 卒業生の就職先は様々ですが、CRO(医薬品開発業務受託機関)や製薬会社のMR(医薬情報担当者)が比較的多いです。

高校生へのメッセージ

- 楽しく研究して、その結果、世の中の役に立てれば最高ですね。
- 応用生物学部で学ぶためには、生物だけでなく化学の知識が不可欠です。入学までによく勉強しておいてください。